



にわか登山日記

鈴木 伸郎

Suzui Nobuo

2年前の5月に学生寮時代の友人から日光白根山に登らないかとの誘いを受けた。埼玉県在住の友人は、長男が中学校の山岳部に入部したことに触発され、登山を始めたようだ。関東近郊の登山スポットにアクセスが良い群馬県高崎市に住む筆者を「足代わり」にしようとする魂胆が見え透いていたが、一度だけ付き合ってみることにした。

インターネットで調べてみると、日光白根山(2,578 m)は日本百名山の1つに数えられる関東以北の最高峰らしい。群馬県側の標高2,000 mの地点にロープウェイの山頂駅があり、ここから始めるコースは初心者でも楽しめるようだ。とはいえ、さすがにスニーカーでは厳しそうなので、トレッキングシューズだけ購入し、他は普段着で登山に臨んだ。9時頃に山頂駅を出発した後、最初の30分は学生寮での笑い話で無駄に腹筋を使いながら楽しく歩いていたのだが、徐々に息苦しくなり、軽いめまいが生じてきた。もしかと思い、念のため携帯していた小型の酸素ポンペを吸ってみると、ぼやけていた視界が一瞬で鮮明になり、息苦しさも和らいだ。ロープウェイで標高600 mを一気に上げたため、軽い高山病になったのだろう。筆者の本職は「植物栄養学」という分野の研究であり、生命活動における水やミネラル(無機栄養元素)の重要性を日々説いているのだが、まさか酸素の大切さを身をもって知るとは想像もしていなかった。その後、森林限界を超え、ザレ場(小石や砂が散乱している斜面)の急登を切り切り、計2時間かけてようやく山頂に登頂してみると、登山者の人だかりの上にヘリコプターが旋回していた。怪我で歩けなくなった登山者を山岳警備隊の方々が救助する様子を目の当たりにした。この山は決して初心者向けの山ではない。事前

調査の甘さを猛省しつつ、下りは残雪での転倒に注意しながら、何とか無事に下山した。

散々たる内容の初登山であったが、それ以来すっかり登山にハマってしまった。登山前の緊張感、山頂での達成感、そして無事に下山した際の安堵感は筆舌に尽くし難い。直ぐにトレッキングポールやレインウェアなどの登山用具を買い揃え、前述の友人と共に月1回の頻度で関東近郊の山々を登り始めた。真夏の谷川岳(1,977 m)では熱中症になりかけ、至仏山(2,228 m)では濃霧のため尾瀬ヶ原の絶景を見ることが出来ず、金峰山(2,599 m)では9時間半の行程を歩き抜いた。5座目に挑戦した八ヶ岳連峰の赤岳(2,899 m)では、4時間かけてたどり着いた稜線で急に天候が悪化したため、雨の岩場とハシゴを恐る恐る登り降り、赤岳のふもとの山小屋に到着した。初めての山小屋は不安でほとんど眠れなかったが、翌日は晴天に恵まれた。早朝に見た御来光と雲海に浮かぶ富士山の大展望は今でも忘れられない。

にわか登山者である筆者が利用している便利なツールについて述べたい。登山計画書の作成には、あるウェブサイトを利用している。このサイトでは、画面上のスポットを順番にクリックするだけで、登山コース上の通過時刻が算出され、登山計画書と登山届のPDFが自動的に作成される。スマートフォン用の便利な登山アプリも数多くある。筆者が利用しているアプリは、事前に地図をダウンロードしておけば、モバイル通信の圏外でもGPS機能だけで登山地図上の現在位置を確認できる。更には、登山の軌跡、標高履歴、移動時間、消費カロリー等のログが下山後にクラウドへアップロードされ、知人とも共有できるので、登山日記として活用している。このアプリによると、筆者がこの2年間に登頂した山は33座、うち13座が日本百名山だった。このペースだと、百名山制覇まであと14年ばかりそうだ。40代半ばにして、良い趣味を見つけることができた。

((国研)量子科学技術研究開発機構 高崎量子応用研究所)